

◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

平成 26 年度第 2・四半期
(平成 26 年 7~9 月)



目黒区 産業経済部 産業経済・消費生活課

目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（平成 26 年 7～9 月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	5
製造業	5
卸売業	9
小売業	13
サービス業	16
建設業	19
(3) 調査員のコメント	22
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（平成 26 年 9 月）	25
4. 特別調査「中小企業における『成長戦略』への期待」について	28
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	30

調査の概要

1. 調査時期 平成 26 年 7 月～9 月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	98	98
卸 売 業	28	28
小 売 業	52	52
サ ー ビ ス 業	61	61
建 設 業	41	40
合 計	280	279

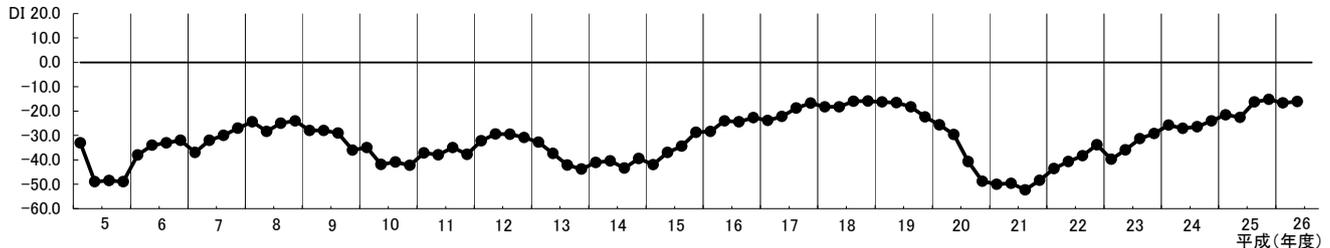
調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会

分析実施機関 株式会社帝国データバンク

1. 都内中小企業の景況（平成26年7～9月期）

（社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

業況の改善、予想より小規模
～来期は卸売業、小売業、サービス業で厳しさが和らぐと予想～



業況判断DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は－16.1（前期は－16.6）と前期に比べ0.5ポイント改善した。業種別に見ると、建設業でやや良好感が強まり、卸売業で若干悪化幅が縮小した。

来期は卸売業、小売業、サービス業で厳しさが和らぐと予想している。

	前期	今期	増減	来期予想	今期との増減
製造業	△16.8	△15.8	1.0	△14.4	1.4
卸売業	△17.9	△16.2	1.7	△12.7	3.5
小売業	△30.9	△31.4	△0.5	△29.4	2.0
サービス業	△16.5	△16.3	0.2	△12.3	4.0
建設業	6.8	8.3	1.5	9.7	1.4
不動産業	△3.2	△4.2	△1.0	△3.7	0.5
総合	△16.6	△16.1	0.5	△13.8	2.3

<製造業>

業況は前期同様の厳しさが続いている。売上額・受注残・収益は水面下ながら減少幅・減益幅がわずかに縮小した。価格面では、販売価格は前期同様の低下基調で推移し、原材料価格は前期並の上昇が続いている。

業種別に見ると、「木材・家具」は水面下ながら大きく改善し、「電気機械」「建設用金属」「精密機械」「一般機械」「プレス・メッキ」「紙・紙加工品」は悪化幅がやや縮小し、「輸送用機械」はわずかに好転した。一方、「化学工業」は水面下に大幅に落ち込み、「ゴム製品」「皮革関連」は悪化傾向がかなり強まった。

来期の業況は悪化幅が縮小すると予想している。売上額は減少が一服し、受注残・収益は今期同様の減少幅で推移するものとみている。

<卸売業>

業況は、わずかに厳しさが和らいだ。売上額・収益はともに前期並の減少が続いた。価格面では、販売価格は幾分上昇幅が縮小し、仕入価格は前期並の上昇が続いた。

業種別では、「機械器具」「鉱物・金属材料」は大幅に厳しさが和らぎ、「化学製品」「食品・飲料品」は若干悪化幅が縮小した。一方、「建築材料」はやや低調感を強めた。

来期の業況は、水面下ながら上向くと予想している。売上額・収益はともに減少幅・減益幅が縮小するものとみている。

<小売業>

業況は、前期同様の厳しさが続いた。売上額・収益はともに前期同様の減少幅・減益幅で推移した。価格面では、販売価格・仕入価格はともに多少上昇幅が縮小した。

業種別では、「スポーツ用品・玩具」は大きく悪化幅が縮小し、「飲食店」「家具・建具・じゅう器」は水面下ながら若干上向いた。一方、「カソリンスタンド・燃料」「繊維・衣服・身の回り品」はわずかに悪化が強まり、「書籍・文房具」は大きく業況感が落込んだ。

来期の業況は、悪化幅が縮小するものと予想している。売上額・収益はともに減少が一服するものとみている。

<サービス業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額・収益は前期同様の減少が続いた。価格面では、料金価格はやや上昇幅が縮小し、材料価格は若干落着きを見せた。

業種別に見ると、「情報サービス・調査・広告」は幾分明るさが見え、「洗濯・理容・美容」は多少厳しさが和らぎ、「自動車整備・駐車場」はかなり厳しさを増した。

来期の業況は水面下ながら上向くと予想している。売上額・収益はともに減少幅・減益幅が縮小するとみている。

<建設業>

業況は前期並の良好感が続いた。売上額・施工高は前期同様の増加が続き、受注残は若干増加傾向が一服した。収益はやや強含んだ。価格面では、請負価格は前期並の上昇が続き、材料価格はやや上昇傾向を強めた。

業種別に見ると、「職別工事」「総合工事」はやや良好感が強まり「設備工事」は多少前期を下回った。

来期の業況は好調感が強まると予想している。売上額・受注残・施工高は伸び悩み、収益は今期同様の水準で推移するとみている。

<不動産業>

業況は前期並の悪化幅で推移している。売上額・収益はともに減少幅・減益幅が幾分拡大した。価格面では、販売価格は変動なく推移し、仕入価格はわずかに落着きを見せた。

業種別に見ると、「建売・土地売買」は好調感が大きく強まった。「不動産代理・仲介」は幾分厳しさが増した。

来期の業況は、今期同様変化なく推移するものとみている。売上額・収益は回復の兆しがみられると予想している。

[注]

ディフュージョンインデックス

○D.I (Diffusion Index の略)

D.I (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季調済) D.I

季調済とは、各期ごとに季節的な変動を繰り返すD.Iを過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工したD.I値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方角をみる方法です。